

わがまち自慢

市長室から



鹿児島県
薩摩川内市
市長 岩切 秀雄



「エネルギーのまち」として 次世代エネルギーに取り組む

ご承知のように、本市は原子力発電所を誘致して、運転開始以来30年間、九州電力さんには事故らしい事故もなく稼働してきていたできました。3号機の増設という時期に、東日本大震災が起きまして、1号・2号機まで停止するという事態になり、その後は皆さんご存知の状況となっております。今回、世界に誇れる厳しい安全基準ができて、それをクリアして再稼働できることとなりました。

本市の原子力関連の交付金は、一般会計全予算の5〜6%で「原子力依存」とは思っておりません。東日本大震災以前から、原子力だけでなく、次世代のエネルギーにも取り組むべきだとして「エネルギーのまち」を目指してきました。平成23年度より、次世代エネルギーを活用したまちづくりを加速化させるため、市内にプロジェクトチームを発足させ、平成25年3月に『次世代エネルギービジョン』を作成して全力で取り組んでいるところです。

このビジョンは、エネルギーの作り方や使い方を考えながら、市民の皆様が暮らし方や働き方の変革を促し、本市の持続的経済発展につなげていくためのものです。太陽光・風力発電では、なかなか雇用を生みにくいいため、次世代エネルギーに関連する企業の誘致や産業創造を目指しています。本市が抱える課題を踏まえながら「市民生活」「産業活動」「都市基盤整備」の3つの柱に沿って、10の取り組みテーマを設定しております。その事業は多岐にわたっており、23項目の事業を推進していますが、成果は現れてきており、『次世代エネルギービジョン』に沿って順調に推移しております。

昨年、『薩摩川内市竹バイオマス産業都市協議会』を立ち上げました。行政と市内の企業や、金融機関、学識経験者などが加わる幅広いもので、産業振興や雇用創出を目指しています。昨年末、市の代表的企業のひとつである中越パルプ工業さんと、本市が取り組んでいる「竹バイオマス産業都市構想」に関する協定を結びました。中越パルプ工業さんは、本年4月に、竹資源を活用する新繊維のプラント建設を発表されました。新たな産業創出を期待しております。

また、「産官学連携」で太陽光発電と蓄電池パネルを備えた街灯「独立電源型LED灯」を、メイドイン薩摩川内LED灯を開発・製造して、市内の12ヶ所に120基導入いたしました。地場企業集団である『薩摩川内市企業連携協議会』による設計・製造・販売で、川内職業能力開発短期大学（ポリテクカレッジ）や、川内商工高校インテリア科にも参画していただきました。

私は1期目から「観光元年宣言」をさせていただき、市内に「シテイセールス」の部局を設置し、本市の観光振興に取り組んでまいりました。

特に、甌島は一次産業が基幹産業ですが、なかなか後継者が出てこないなど、素晴らしい観光資源はありながら産業が少なく、若い人の働く場所がありませんでした。そこで、生活航路を活かして観光を推進するため、高速船『甌島』を市で建造し、公設民営で現在運航しています。九州新幹線のデザインで知られる水戸岡鋭治氏にデザインしていただき、港への電気シャトルバスのデザインもお願いいたしました。

甌島には、太古からの断崖が残っておりますが、本土に近い島で、このような環境は素晴らしいというところで国定公園への指定も受けました。さらに、化石も出るということでジオパークの研究も進めております。シヨップやカフェ、交流スペースを持つ施設も上甌島と下甌島に整備いたしました。おかげさまで交流人口も増加しており、以前は甌島を「こしき

シテイセールス事業が着々と成果を上げる

ま」と読んでいただけの人が少なかったのですが、最近は名前も浸透してきました。観光物産協会に推進体制も、観光物産協会については市にいくつかあつた組織を

次世代エネルギーを体感できるスマートハウス（実証事業）



超小型モビリティ（coms）。地域コミュニティの連絡手段や観光客の移動手段として導入（実証事業）



川内駅～川内港シャトルバス（電気バス）を導入



「体感」や「実感」の機会を提供する「次世代エネルギーフェア」



産官学連携で設計・製造した「メイドイン薩摩川内LED灯」





国定公園に指定された甑島の長目の浜。国の天然記念物



5月にオープンした『コシキテラス』・左(上甑)と『てうちん浜や』・右(下甑)。ショップ・カフェ・交流スペース・オープンデッキ等の施設になっている



水戸岡鋭治氏のデザインによる高速船「甑島」



太古からの地層が見られる「甑島新崖クルーズ」

1つの会社にし、いろいろな協力
が得られるようにいたしました。
まだまだ、市内には観光資源がた
くさんあります。これまで以上に
観光で売り出していきたいと思っ
ております。
2020年に「東京オリンピック
」を控えています、総合運動

町4村で合併いたしました、当時48あった小学校区に、それぞれ「地区コミュニティ協議会」を立ち上げました。その「まちづくり

こうした観光や特産品開発、コミュニティの活性化などで、活躍していただいているのは、「地域おこし協力隊」の皆さんです。頑張り屋さんばかりで、田舎に行こうと決断する時点で覚悟が違いま

民間で自発的に地域振興に取り組んでいただく方々も出てきました。補助金で運営されていた観光物産協会の運営も、やはり自分で稼

活動」で県知事や国土交通大臣、内閣総理大臣から表彰を受けるところも出てきました。昨年度は萩答院の黒木地区が「豊かなむらづくり全国表彰」で「九州農政局賞」を受賞しています。

合併して10年で、おおむね一体感の醸成ができました。様々なメディアにも取り上げられるようになってきました。しかし、まだまだ様々な課題を抱えております。これからも先頭に立って、市政に邁進する所存であります。どうか、薩摩川内市をよろしく願います。(談)

喜ばしいことに職員が、市民との対話をもとに、アイデアをたくさん出していきます。鹿児島の人、素晴らしい「宝」がたくさんあるのに情報発信が苦手だったと思います。今は、情報技術が発達して、若い職員が情報発信してくれており、これからはどんどんやってほしいと思っています

産学官民の連携をさらに推進して「交流躍動都市」を実現

公園での合宿を契機とした交流人口の拡大にも取り組んでおります。総合運動公園は男女のバレーボール・ナショナルチームの強化施設として指定されていますが、そのおかげで他の合宿も増えています。過去に、セルビアのバレーボール・ナショナルチームの合宿を誘致したことがあり、「東京オリンピック」でも、そうした合宿誘致に取り組んでいく必要があると思っております。

同じ2020年には鹿児島県国体もあり、天皇陛下にお越しいただけるような取り組みも必要です。本市にはセミナーやイベント、展示会ができるコンベンション施設がないので、コンベンションホールの建設に向けて取り組んでいきたいと思っております。

本市の特産品では、やはり焼酎『dancyu』という雑誌で、まろやかタイプとして『甑洲』、重厚タイプとして『六代目百合』が第1位に選ばれました。どちらも甑島の酒蔵のものですが、とても誇らしいと思っております。また、甑島の「タカエビ」は島の特産品です。以前は小さいものは捨てていましたが、今は「六次産業化」に取り組み「タカエビ味噌」などとして販売しています。甑島以外でも、市内の9社を「六次産業化企業」に認定して、特産品の開発に頑張っていたいております。



総合運動公園にあるアリーナ



黒木地区コミュニティが「豊かなむらづくり全国表彰」で「九州農政局賞」を受賞

総合運動公園の全景(航空写真)

現在7名が活躍する「地域おこし協力隊」のメンバー。写真は原田幸治さん(手前)と河内美鈴さん



甑島の特産品タカエビによる『タカエビ味噌』

『dancyu』で、まろやかタイプとして『甑洲』、重厚タイプとして『六代目百合』が第1位に選ばれた甑島の焼酎